

高分子錯体研究会 国内留学報告書

平成 18 年 9 月 26 日

大阪大学大学院 理学研究科 高分子科学専攻

超分子科学研究室 井上洋平

「超分子科学の最先端」と題して、第一線で活躍されている講師陣による超分子の合成、物性、解析・評価ならびにそれらの展開研究・将来展望を、聴講した。

今までの超分子の研究は、ロタキサンやカテナンなど数個のユニットからなる超分子の研究が主であったが、最新の研究では、多数ユニットからなる、より高次元な超分子設計がなされており、究極の超分子と考えられるタンパク質などのより複雑な構造をもつ生体分子を目指して、超分子化学研究が現在急速に発展しつつあることを感じた。特に、東大院理の塩谷光彦先生の「超分子の設計と新展開 -人工 DNA から分子ボールベアリングまで-」の講演では、非常に高度な超分子構造体の構築と、その精密な構造制御がなされており、自分の研究にも通じる要素があったため、非常に参考になった。その他の講演においても、参考になる点が多く、本留学は研究の情報収集として非常に有意義であったと思う。